

病 理 学 実 習

【単位数：0.5単位，授業13コマ】

1 科目責任者

笠井謙次 教授(病理学)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-b)

- ① コアコンピテンスである「医学知識と科学的探究心」を理解するため，病理組織像の理解を通じて疾患の概念及び病因・病態の基礎医学的要素と共に，鑑別と治療につながる病態を学ぶ。
- ② 病理学実習では，病理学講義で学修する疾病の成り立ちの基本メカニズム及び各臓器の主要疾患について，形態異常として理解することを目指す。

(2) 学修目標

- ① 細胞障害・変性・細胞死の形態学的変化を説明できる。
- ② 代謝異常による病理組織像を説明できる。
- ③ 循環障害・臓器不全の病理組織像を説明できる。
- ④ 炎症，感染症及び創傷の経時的変化・治癒過程，免疫異常による疾患の病理組織像を説明できる。
- ⑤ 腫瘍の病理組織像を説明できる。
- ⑥ 呼吸器腫瘍性疾患と閉塞性肺疾患・気道異常の病理組織像を説明できる。
- ⑦ 虚血性心疾患・炎症性心血管疾患・特発性心筋症・心臓腫瘍の病理組織像を説明できる。
- ⑧ 消化器の感染症・自己免疫疾患・循環障害・腫瘍性疾患の病理組織像を説明できる。
- ⑨ 神経病理の基礎を理解し，代表的中枢神経疾患の病理組織像を説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
実習	○	100%	実習レポートが不良の場合，再提出を求める。 全てのレポート完了を以って病理学実習の単位修得とし，さらに病理学修了の条件とする。また病理学実習で学修した内容は病理学定期試験の試験範囲に含まれる。範囲は病理学の項を参照のこと。病理学実習の総合成績は実習レポートの完了を以って60点(合格)とし，そこに病理学定期試験で出題した実習関連問題の得点割合を加点して合計100点満点とする。
態度	○	—	態度不良の場合は「問題行動学生報告書」(イエロー・レッドカード)を提出し，10点を限度に減点する。

出席：実習を修得するためには，欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

実習レポート完了を以って合格(60点)とする。レポート内容が不十分の場合，再提出を求める。再提出の期限は別途指示する。さらに実習の内容は病理学の定期試験の出題範囲に含め，その得点割合を加点して合計100点満点の総合成績とする。
また，著しく受講態度不良の場合，病理学実習の単位を認めない。

(3) 再試験・再評価の方法

レポート内容が不十分の場合、再提出を求める。再提出の期限は別途指示する。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

提出されたレポートについて適宜返却するので、病理学学修の資料とすること。

不十分なレポートにはその旨記載し、再提出を求める。再提出の期限は別途指示する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
実習プリント			実習ごとに観察ポイントや課題を記載したプリントを配付する。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
標準病理学	坂本穆彦 監修	医学書院	病理学講義の教科書であるが、実習後の振り返りにも有用。 学修内容が網羅されている。
ロビンス 基礎病理学	豊國伸哉, 高橋雅英 監訳	丸善出版	記述にストーリー性があり秀逸。
日本病理学会「病理コア画像」 http://pathology.or.jp	日本病理学会教育委員会	日本病理学会	登録疾患が厳選されている。
組織病理アトラス	森谷卓也 ら	文光堂	多くの疾患が網羅されている。

6 準備学習（予習・復習）

- 実習範囲の講義内容の振り返りをする（1日あたり15分）。
- 配布資料、講義内容、教科書、参考図書の該当範囲を復習すること（1日あたり1時間）。
- 異常と正常とは表裏一体である。病態の理解のために、適宜解剖学、組織学などの振り返り学修を行うこと。

7 授業計画

(1) 実習の方法

2号館（研究棟）106号室でバーチャルスライドを用いて実施する。

実習の際の持ち物等は9月4日（金）1限の「病理学講義ガイダンス」及び10月9日（金）2限「実習ガイダンス」で説明する。

またバーチャルスライドの詳細は10月19日（月）1限の実習A開始時に説明する。

(2) 実習の内容

実習に当たって観察ポイントや課題を記載したプリントを適宜配付する。

詳細は9月4日（金）1限の「病理学講義ガイダンス」及び10月9日（金）2限「実習ガイダンス」で説明する。